

No.	課題分類	事業名	事業概要	課題内容	課題に対する担当課の提案 (解決方法)
1	新たな課題	投票区(投票所)の見直し(杉木地域)【H28職員提案】	市では、公職選挙執行規程の規定に基づき割り当てられた投票区において選挙を執行している。 そのうち、砺波市杉木は林地区であるが、同規定により出町投票区に属しており、投票所は出町投票所(出町小学校体育館)となっている。 (参考)杉木地域の選挙人数 1,409人 (平成30年6月1日現在)	土地区画整理後、転居等により新たに杉木地域の住人となった多くの選挙人にとって、生活圏が林地区であるにも関わらず、選挙時は出町投票所へ投票に行くことへの違和感が少なからずあるものと思われる。 また、出町投票所は、もともと選挙人の数が市内で最も多かったところに加え、近年の杉木地域の人口増加により、一層、選挙人が増加しており、投票所の適正規模の均衡を可能な限り保つ必要がある。	杉木地域を、出町投票区(所)から林投票区(所)に見直し、関係自治振興会と協議を進める。 公職選挙執行規程は投票区を「住所」で分けているため、杉木、杉木一～五丁目、新栄町の住所の選挙人を林投票区に移すことは可能である。 住所単位で移せば市民への説明が明瞭である。 (自治振興会を基準とすると、その境界が複雑に入り組んでおり、個別対応が必要になる。また、その境界を行政側では把握できず、明確な線引きができない。)
2		となみ野美術展	広く砺波地方に居住する美術家の優れた作品を一堂に展覧し、一般の鑑賞に供することで、住民の芸術文化の普及振興及び優秀作家の育成を図るために昭和57年から開催している。 また、砺波市及び砺波市教育委員会が共同開催し、毎年1回開催しているものであり、展覧作品は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書及び写真の部門がある。	平成の合併によって11市町村から3市となり、砺波市で開催する意義が薄れてきているほか、大賞作品を150万円で買取りしており、このような展覧会を1市だけが負担していることが時代にそぐわないものとなっている。	砺波地方における美術展の開催状況を調査し、継続の必要性を検討したうえで廃止を含め、今後の方向性を見出す。 ワーキンググループを立ち上げ、方向性を検討する。(展覧会の廃止又は縮小、賞金額の見直し、買取の見直し等)
3		砺波市成人式記念品の廃止	毎年開催されている、成人式において記念品としてとなみブランド認定品のうち「越中三助焼」「庄川挽物木地」を隔年で選定して贈呈している。なお、単価は1,000円/個(税別)であり、となみブランド認定品として贈呈し始めたのは平成18年(平成17年度)からである。それ以前は、合併直後はマナーブック等、旧砺波市はマナーブック等で旧庄川町は木工製品であった。	材料の高騰があっても予算1,000円のまま変化もなく、どちらのブランドも手作りのため納期の大変さもある。また、成人式終了後に市内のリサイクルショップに記念品が並んでいる現状も散見し、成人者本人からももっと違う物が良いとの声も毎年聞いている。 県内の他自治体でも物品としての記念品を贈呈している市は2市のみである(記念写真や金券はある)。 このほか、受注者の高齢化による納品の苦労も聞いている。	成人式実行委員にアンケートをとった結果、物よりも記念写真や金券の方が嬉しいという声が多かった。記念写真を当日に撮影し、後日データを市HPから取得する方法とすれば費用も少なく、対象者にとっても喜ばれる記念品にできると思われる。